

愛知のミカン園再生へ ～知多 EM ミカン園の誕生～

秋晴れの心地よい晴天の中、知多 EM ミカン園（愛知県知多郡美浜町）にてミカン狩りが企画された。この知多 EM ミカン園に取り組んでいるのは、半田運河の浄化活動などを精力的に実施している U-ネット愛知県理事で、やなへこクラブの竹内睦治氏だ。

竹内理事は 2018 年 5 月に EM がきっかけで知り合った方より、昨年栽培を断念したミカン園を紹介された。今年 8 月にミカン園の視察に出向き、オーナーの想いを受けて EM によるミカン園再生を決意し、すぐに仲間を集って再生活動に着手した。

「人」、「資金」、「体力」など、再生資源が限られていることもあり、その上、ミカン栽培はまったく未経験だった竹内理事に、友人・知人の多くが反対した。しかし、竹内理事の熱い想いに賛同した仲間が集い、U-ネット会員の支援もあって、再生活動をスタートさせる目処が見ついた。そして、EM による重力子（グラビトン）技術を信じ、ミカン園の再生が始まった。



知多 EM ミカン園を紹介する竹内理事

ミカン樹の種類と規模	
はるみ	2 反分
デコポン	1 反分
温州ミカン（極早生）	12 本
合計	120 本

【EM 重力子（グラビトン）技術の効果】

最初の取り組みは猛暑の中、8 月 20 日（湾・ワン・浄化市民塾＝知多の自然を良くする会）に 4 名で背丈以上の草刈りから始まった。その後、定期的に EM 希釈液を散布しながら EM 整流境界の設備を整えた。EM 整流境界内はとても心地良い空間となり、ミカンの樹々の良い効果となると実感した。実際にミカン樹の枝先の白くなっていた部分（カイガラ病）が消えていった。EM 重力子（グラビトン）技術の効果を体感しながら、再生に取り組み始めて 2 か月で関係者にミカン狩りを楽しんでもらえるまでに再生することができた。



【EM ブランドのミカンを目指して】

今後は、継続して EM 海水活性液の散布、EM セラミックスの塗布などを実施してミカン樹の手入れを行い、ミカン園の設備を整えていく。更に新しい情報を取り入れながら EM 重力子（グラビトン）技術も駆使する。近い将来、EM ブランドのミカンを提供できるように、夢と目標をもって取り組んでいくと竹内理事は語った。愛知県から新たな EM ミカンが世にでることを期待したい。

EM ミカン園再生に向けて使用した農資材		
1	EM 海水活性液	希釈（500 倍）して散布
2	EM3 号	
3	EM7 号	
4	ストチュウ	地中へ埋設
5	海水活性炭（木炭粉）	
6	天然塩	5m 間隔で設置
7	セラミックパウダー	
8	単管 15 本（4m）	格子状に張り付け
9	EM 整流ペットボトル（500ml）	
10	トラロープ（1,000m）	

【取材：長谷部孝】